

第1回ユニバーサルデザイン基本指針策定懇談会意見要旨

委員名	意見等	委員名	意見等
A	<ul style="list-style-type: none"> ・より生活しやすい社会をつくるためにハード整備は重要であるが、一番大事なのは、市民の心そのものの育成だろう。 市民の意識、心を育成しないと、いくらハード面、あるいはソフト面が良くなっても、根本的には変わっていかないのではないか。 	H	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの中では、妊婦の方にできるだけ席をゆずっていただくということに取り組んでいたが、妊婦といってもまだ妊娠初期であると、周囲から見ても分からない。そういったお客さんから、何か目印を持っていれば、席を譲ってもらえるというのに、という御意見をいただいたことがある。 ・まずは市民一般の方が、ユニバーサルデザインについての知識を深めてもらい、それを実践していくということが一番重要であると思う。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・高松市がコンパクトエコシティのまちづくりを進めているが、そういう面でもユニバーサルデザインの考えを盛り込むことができれば、もっと住みやすいまちになるのではないかと。 ・足腰の弱い人たちが、不安がらずに通勤や病院通いができるよう、電車に自転車ごとに乗れるようにしてもらえれば、そういった人たちの行動範囲が広がり、気持ちの面でも元気が出る。 	I	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインという言葉に分かる人が、今現在どれくらいいるのだろうか。さらなる周知啓発が必要である。 ・高齢者の立場からすると、バスなどの生活の足がなくなるととても不便である。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインが導入されていても、知らずに使っている人がとても多い。自動販売機など、ユニバーサルデザインが実際に使われているものにステッカーを貼るなどすれば、市民の理解が深まるのではないかと。 ・ユニバーサルデザインについてのステッカーやポスターのデザインを小中学校から集めることにより、子どもたちも小さいときからユニバーサルデザインに触れる機会を持てばよいのではないかと。 	J	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人が日本で生活に当たっての壁は言語と文化であるが、観光の場合と、長期で住もうとしている場合との二通りの考え方があり。観光の場合に必要なのは、言語の手助けや地元情報の提供であるが、住もうとしている場合には、自立できるようになるための配慮が必要となる。 ・ユニバーサルデザインという考え方を普及させる必要がある、と意識することは非常に大切なこと、意識しなくなると、ただ進歩しないだけでなく逆戻りしてしまう。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・体の不自由な人が使って便利なものは、健常者にとっても便利なものでもあり、これもユニバーサルデザインだということの啓蒙、普及啓発の仕方が大切で、その中に高松らしさを出すことができれば良いと思う。 	K	<ul style="list-style-type: none"> ・これから県外、国外の観光客が増えてくるものと思われる。外国語標記の案内板などの作成も大切もだが、ユニバーサルデザインの基本というものは、県外や国外の人を案内できる人材育成であり、その裏には自分の街への知識が必要となってくる。こういったことが、街を大切にすることに繋がってくるのではないかと。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインというものは、これから推進されていかななくてはならないものだが、差別化で商品を買ったりしている現代の社会では、なかなか受け入れられない考え方なのではないかと。知識、心のユニバーサルデザインを追及していけば、自然に良いものを作ってもらえるようになると思う。 	L	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーの取組ということで、公共施設を中心に非常に整備が充実してきているが、ハード整備によって全ての人に対応することには限界があるので、まずは人づくりが一番重要になってくるのではないかと。 ・まずは我々自身の心のバリアフリーということ、今後進めていかななくてはならない。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・近年は多機能トイレが整備され、重度の障害を持つ人でも使いやすくなったことにより、健常者の人にも便利になり、本来使用すべき人が使えないような状態が起こっている。 ・トイレや駐車スペースなど、ハード面の整備はどんどん進んできているが、それを使う人の側にマナー向上などの必要性がある。 ・例えば、車椅子の人の要望を100%かなえることは難しい。それを補うのは人のやさしさや、気遣いである。 	M	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている人を助けるといった心のユニバーサルデザインを作り上げていかないと、なかなか社会全体は良くなると思う。 ・日本語の分からない外国人からすれば、バスや電車の乗り方が分からない、標識も読めないなど、非常に暮らしにくい社会になっているように思うので、そういった人たちの意見も盛り込むことはできないかと。
G	<ul style="list-style-type: none"> ・デンマークでは、車椅子で外に出ると、すぐそばに石畳ではなく車椅子で通れるような歩道があり、こうした道があるため、旅行者も大きな鞆を持って、簡単に移動することができる。街の基盤そのものが、さりげなく、皆に使いやすいように整えられていることが、多くの方が街の中に出てくるといった状況に繋がっている。 ・自閉症の方には、環境的な理解が難しく、シンプルさと分かりやすさが必要な方々がいるので、その方々に合わせていけば、多くの人たちに分かりやすいものになると思う。 	N	欠席